


# 砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

 鳥取医療センター

発行責任者：下田 光太郎

## 理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

## トピックス

1. 新年度の抱負
2. 新重症心身障がい児(者)病棟完成
7. 第3回接遇研修会
8. 桜の園プロジェクト
9. 臨床研究部主催の国際講演会



## 新年度の抱負

今年度も新人、異動者等多くの職員を迎え新たな事業年度がスタートしました。昨年は念願であった重症心身障害児者病棟の新築建替工事が始まり、今年2月の大雪等より工期が一月遅れましたが、いよいよ本年4月には完成し、開棟となります。また経営的には昨年度は経常収支率103%となり年度末賞与の支給が出来ました。これは皆様の医療に対する熱意の表れと想っているところで、職員の皆様並びに関係各位に感謝申し上げます。

さて平成24年度についても引き続き当院の基本理念の基に様々な取り組みを行っていく所存です。特に今年度は患者さんを中心として地域との繋がりを大切にしたいと想います。患者さんの立場に立ちながら地域連携室を中心に病院と病院、病院と施設、病院と診療所との繋がりをより強化して、人のみえる形で継ぎ目のない医療を行いたいと想います。当院は所謂セーフティーネット系医療の入院医療を中心に行っています。これからはこれらの医療も地域との連携で行い、さらに地域により開かれた態勢で望みたいと想います。その一つが回復期リハビリテーション医療です。昨年8月に回復期リハビリ病棟の開棟、12月に新リハビリ訓練棟を開棟しました。また今年度神経内科医2名、理学療法士4名、作業療法士5名、言語聴覚士2名の増員を行い、本格的に地域のリハビリテーション医療に貢献できるような体制を整えました。当院のリハビリ医療の充実を契機として、鳥取県東部で安心してリハビリが受けられるような連携体制を作っていききたいと思います。さらに当院が行っている精神医療、様々な障害児者医療、老人医療の充実を地域との連携を常に念頭に置き、病院から在宅まで幅広くみていける体制の確立を模索してまいります。今医療は施設完結型から地域完結型となり、かつ多職種連携によるチーム医療が主流となり、医療から福祉へのシームレスな体制が求められています。当院もこうした観点から、当院のもてる機能を十分に発揮して地域に於ける役割を果たしていききたいと思います。本年度も地域の中で皆様とともに医療を行っていきます。よろしくお願ひ致します。



鳥取医療センター 院長  
下田光太郎

# ● 新重症心身障がい児(者)病棟完成 ●

管理課長 川村 豊 昭

平成24年4月24日(火) 11時より国立病院機構鳥取医療センター大会議室において『新重症心身障がい児(者)病棟完成式』が執り行われました。

これは、平成23年5月より始まった病棟等更新築整備工事の1つであり、予定では平成24年3月に完成予定の工事でした。

しかし、冬季における大雪の影響により工期が遅れ4月に無事完成の運びとなったものです。

当日、好天に恵まれ鳥取県関係の方々をはじめ、保護者の方や地元自治会関係者、医療関係者などの来賓を迎え、職員と併せ約150名の出席により盛大に厳かに行われました。

完成式は、はじめに「三津神社宇田川宮司」により厳かに神事が執り行われ、続いて完成式へ。

下田院長による挨拶の後、来賓の方による祝辞を頂き、テープカットが行われ式典は無事終了。

新重症心身障がい児(者)病棟はRC造4階、延床面積6,450.97平方メートルの建物です。1階は多床室を含む50床、2階及び3階は55床、4階には音響設備を備えた大会議室をはじめ、中小会議室、療育訓練のための部屋が整備され鳥取空港や日本海を一望でき患者さまが楽しめる空間となっています。

また、4階には今まで病院敷地内に別棟としてあった「県立白兔養護学校訪問学級」を設けています。

5月初旬に新病棟への移転予定ですが、入院患者さまの治療環境は格段によくなるものと思います。

今後も当センターは院長を先頭に職員一丸となり県や市と連携、協力し一層地域医療にまい進し貢献して行きたいと思いをします。



## ● 新任のご挨拶 ●

### 診療部長 齋藤 潤



このたび4月1日より鳥取医療センターに神経内科医として勤務させていただいています齋藤潤と申します。

自己紹介をいたしますと、出身は島根県益田市で、高校卒業後鳥取大学に入りまして、初めて親元を離れて生活したのが、鳥取市湖山町です。現在は鳥大医学生は初めから米子で教育を受けていますが、その頃は湖山キャンパスでの教養課程があり私も鳥取市で2年間生活いたしました。その後も鳥取大学脳神経内科に入局間もないころ、鳥取赤十字病院で1年間内科医として勤務したことがあります。従いまして鳥取は私の第二の故郷のようなもので、岡野貞一（+高野辰之）さんの「故郷」の歌にあるような懐かしさを感じています。

前任地の出雲市ではほとんど急性期脳卒中を見ており、クリティカルパスで回復期病院に送り出すまでのあたふたとした状態しか知りません。一度はその後の患者さんの経過を見てみたいものだと思っていました。当院で急性期と維持期の橋渡しをする回復期の医療をしっかりとやって行きたいと思います。また、以前から好きでんかん治療や神経生理学も私の役目としていきます。さらに、当院も近々電子化が計画されていますが、電子カルテは出雲の病院で12年あまり経験がありますので、出来るだけ便利なシステムに出来るように協力していきます。少々くたびれていますが、精いっぱいやりますのでよろしくお願いいたします。



### 神経内科医師 土井 あかね

当院に通院あるいは入院中の患者様およびご家族の皆様、そして職員の皆様こんにちは。平成21年3月まで『神経内科医師の後藤あかね』として勤務しておりました。その後3年間、埼玉県所沢市の国立障害者リハビリテーションセンター病院で神経内科勤務の傍らリハビリテーション（以下、リハ）医学の研修を行い（その間に結婚もして）、この4月から再び当院で勤務しております。私の出身は東京ですが、平成13年鳥取大学医学部卒業後も山陰に残り、翌年鳥取大学脳神経内科に入局しました。平成16年4月に当時の西鳥取病院勤務となり、5年間主に神経難病や脳卒中の患者様を担当し治療を行う中で、鳥取県内のリハ医療の体制が東西で大きな格差があることを痛感しました。これからの自分自身の状況も考えた上で思い切って3年間リハ医学研修のため首都圏に出て、高次脳機能障害のリハおよび脊髄損傷や骨折、切断といった整形外科領域のリハを学んで参りました。以上がごく簡単な私の経歴です。神経内科所属ではございますが、神経疾患や整形外科疾患、さらに生活習慣病などの内部障害におけるリハ医学の知識を生かして『リハ医師の土井あかね』として医療現場で皆様のお役に立てるように、リハ医学会専門医の取得も含め研鑽に努めたいと考えております。浅学菲才ではございますが、御指導御鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。



### 薬剤科長 榎野 勝幸

平成24年4月1日付で、関門医療センターから昇任人事で赴任しました薬剤科長の榎野勝幸です。単身赴任5年目に突入しました。

3月末に引き継ぎで鳥取医療センターに来院した時は季節外れの8センチの積雪でした。今年の雪が山陰の人たちに苦勞かけた事を身に染みて感じました。冷え性の私には寒い鳥取県での勤務は少し厳しいような気がします。

転勤前に当院を経験された職員から色々と現状を聞くことができました。全ての方が病院の雰囲気は良く働きやすい病院でありあまり心配しなくて良いと言われていました。

鳥取県のイメージは、砂丘・温泉・白兔海岸・大栄スイカ・名探偵コナン・山芋・ラッキョ…。少しずつ鳥取県を満喫して行きます。

前任者より薬剤に関するヒヤリハット件数が多いので常に改善をお願いしたい。治験事務局長の業務を継続してもらいたいなどでした。治験業務に関しては全く経験がなく赴任前後で少し重荷になっていましたが、少しずつ努力し信頼される治験事務業務を遂行して行きたいです。

皆さんもご存じだと思われそうですが、精神科・重症心身障害児（者）をはじめ当院の入院患者様において薬物治療の占める割合は非常に高いです。「クスリ（薬）」を反対から読むと「リスク（危険）」です。患者様が安全な薬物治療が出来るように改善・情報提供を発信し、若い薬剤科職員と共に熱く仕事を遂行し、患者様・家族・職員及び地域から信頼される薬剤科にしたいと思います。

## ● 職場紹介～臨床検査科～ ●

副臨床検査技師長 林 久 美 子

当院の検査室は、技師長も含めて4名の臨床検査科検査技師が働いています。朝は、8時15分からの簡単なミーティングに始まり、それが済むと3名は病棟に検体収集に出かけ、持ち帰った血液・尿・便・喀痰などの検査に全員でかかります。そして、おそくとも10時くらいまでにはその検査結果を院内Web画面で参照できるようにしています。迅速・正確なデータをお返すため、毎日、内部精度管理を行い、日本医師会・日本臨床検査技師会などの外部精度管理にも参加しています。月1回の検査科運営委員会では、それらの報告や新しい検査の紹介など検査科の今後の方向性を検討しています。朝10時頃までは4名で血液や尿の検査をしていますが、それ以後は、細菌室・生理検査室に1名ずつ別れ、それぞれの検査を開始します。

薬局・レントゲンは正面玄関を入ってすぐの所にありますが、検査科は新館の精神科外来の奥にあり、正面玄関より140mほど歩いていただきます。それゆえ、歩くことの難しい外来の患者さまや病棟心電図の半分以上は検査技師が出向いて検査をしています。

当院の専門外来のひとつに睡眠外来があります。日本睡眠学会の認定施設で、医師・技師ともに認定資格をとり、PSGの検査を月3回、火曜日の夜8時

～翌朝6時まで検査科で実施しています。詳細は当院ホームページー臨床検査科ー生理検査をご覧ください。ひどいびきや寝ている間に息が止まっている方、メタボリック症候群、早朝高血圧の方、脚がムズムズしてなかなか寝付けない方、昼間の耐えがたい眠気や、睡眠覚醒リズムがずれてお困りの方は一度睡眠外来にご相談ください。また、光トポグラフィ装置の導入により4月からは新たに精神科領域に於ける光トポグラフィ検査の研究にも取り組む予定です。



## ● 職場紹介～栄養管理室～ ●

栄養管理室長 濱 端 直 樹

患者様に寄り添う栄養管理室です！

栄養管理室では、管理栄養士3名、栄養士1名、調理師12名、食器洗浄員（委託）のスタッフで患者様の栄養管理や栄養相談、入院中の給食管理などを行っています。おいしい食事を提供し、患者様に安心して過ごしていただけるよう、皆で頑張っています。

入院中の食事については地産地消を目指し、お米は鳥取県産のひとめぼれを用いるなど、できる限り鳥取県産の食材を使用するようにしています。また、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供できるように、保温保冷配膳車を使用しています。

食事のことで困ったことがあればいつでもご相談ください。

疾病の治療において食事は大きな意味を持ちます。特に糖尿病や高血圧といった生活習慣病では、適正な食事を摂取することが治療のスタートであるといえます。多くの入院患者様にとっては食事が大きな楽しみでもあります。栄養管理室では一日に入院約1200食、通園約10食、デイケア約20食の食事提供を行っています。入院食の約75%は特定の疾患や摂食・嚥下障害に対応した特別食であり、一日の献立数は40種類にも及びます。栄養管理室では、治療における食事の意味を理解し実践していただけるための栄養指導と、食事を楽しんでいただけるための工夫に取り組んでいます。

◆選択食

患者様が食事の内容を選択できます。週2回、昼食時に行っています。



A：かれのいのカレー焼き



B：鶏肉の竜田揚げ

◆行事食・メッセージカード

患者様の健康回復を願い、1月から12月まで四季折々の行事食にメッセージカードを添えています。



3月 ひなまつり



9月 敬老の日

◆入院・外来患者栄養指導

患者様に対して、治療食の意義と内容を理解して頂くとともに、退院後の食事の摂り方のアドバイスをさせていただきます。入院・外来栄養指導、ともに患者様に個別対応した指導やモデルメニューをお渡しするなど、より解り易く、家庭でも行える食事療法を紹介しています。



## ○ 職場紹介 ～2病棟～ ○

2病棟 看護師長 中山 雅子

2病棟は、県内での結核患者様の治療の大半を担う結核専門の機能を有する病棟です。年間10名前後の入院がありますが、結核で入院された方に対し、結核とはどのような病気であるか、結核を治すためには継続した内服治療が必要なことなどを理解していただけるよう、それぞれの患者様に合わせた関わりを大切にしています。早い方でも2ヶ月程度の入院が必要となるため病状はもちろんその間の心の変化に心を配り、退院が決定した時の喜びは患者様同様に嬉しいものがあります。

一般病床には、心不全や肺炎、尿路感染、などの感染症、脳卒中後遺症、パーキンソン病などの脳神経内科の患者様も多く、あらゆる疾患の患者様に対応しています。そして、ほとんどが継続した身の回りの援助が必要です。患者様の心地よい療養環境、継続したケア提供のため、

日々観察の目を養い、ご家族の方ともコミュニケーションを密にし、思いに沿った日常を送っていただけるよう取り組んでいます。

2病棟スタッフとして、患者様にとっての最善を考え行動できるよう心がけています。



## ○ 職場紹介 ～10病棟～ ○

10病棟 看護師長 夏田 真理

10病棟は、精神科閉鎖病棟で、男女混合です。高齢の患者様もいて、清潔援助や食事援助の必要な患者様も多く入院されています。

精神科リハビリテーションも盛んで、集団作業療法や個人作業療法が殆ど毎日あって、カラオケ、映画鑑賞、散歩など患者様も楽しみにしています。食事の機能訓練も行なっており、他職種チームと一丸となって、患者様のケアをさせて頂いております。

昨年から新人スタッフも増え、病棟は若さがあふれています。男性スタッフも新しく入り、にぎやかになりました。患者様の気持ちに寄り添った看護ができるように、優しく声をかけることや患者様がその人らしく生きていくために、今後どうすれば良いのか、支援して行きたいと考えています。

優しい先輩看護師の指導の下、若手スタッフも伸びのび育つ明るい職場です。是非、興味・関心のある方は、見学においでください。



## ● 第3回接遇研修について ●

副院長 助 川 鶴 平

第3回接遇研修が平成24年1月21日（土曜日）、鳥取医療センターデイ・ケア棟で行われました。

研修は、落ち着いた感じで始まり落ち着いた感じで終わりました。講義あり、グループワークあり、ロールプレイありで、充実した楽しい研修であったと思います。

今回の研修の大きな特徴は、宿泊研修のかたちになかった事です。接遇は人と人とのコミュニケーションですから、当然のごとく「飲みニケーション」も入れるべきだとの前世紀的な発想から宿泊研修としていました。しかし、宿泊研修となると参加者の準備も必要ですし、家庭のある人は参加しにくいなどの問題もあり、参加者への負担感が大きかったように思います。これを昼間の約半日の研修に短縮したことは大きな改革でした。

もうひとつの特徴はロールプレイを導入したことです。当院の患者様やご家族が困っている時に、どう対応すればよいかはグループで討議すれば、ほぼ常識的な回答が出てきます。それが実行出来なければ意味がないわけです。この点、ロールプレイはその常識的な対応の練習と

して非常に効果的であるように思われました。

研修生の方、スタッフの方、大変ご苦労様でした。

このような研修は、一度や二度やっただけでは、あまり意味をなしません。今後も続けてゆくことが大切であると思います。何度参加しても必ず新しい発見があります。参加経験のない人もある人も今後とも接遇研修に参加していきましょう。仕事が楽しくなるために。



## ● 第3回接遇研修に参加して ●

8病棟 副看護師長 小 林 里 美

今回の研修は、院内での1日研修でした。午前中は演習を交えた講義が行なわれ、コミュニケーションは聞き手のとらえ方によって、伝える意図とは違った伝わり方をすることを体験しました。内容を紹介するので皆さんも一緒に考えてみてください。

始めに『1円玉を想像して書いてください』

1円玉の大きさは正しくかけましたか？私は普段よく見て知っているつもりでしたが、実物よりも小さく書いてしまいました。参加者一人ひとりが、日常の中で感じている大きさはいろいろで、正確に表現することは難しかったです。

次は指示の通りに書いて見てください。『円を書いてください。三角を3つ書いてください。線を1本引いてください。』

どのような絵になりましたか？言葉だけの指示に従って絵を描くという作業でしたが、研修生一人ひとり異なった絵が出来上がりました。言葉で伝えることの難しさを実感することができ、何かを伝えようとするときには正しく伝えるための努力が必要だ

と感じました。またこの演習によって、情報は受け手によって様々な受け止められ方をする事もわかりました。

医療現場において、医療従事者間だけでなく、患者や家族へのコミュニケーションも重要です。こちらの意図した思いが違った受け止め方をされるということを、充分に考慮して話をしなくてはいけないと改めて感じました。世間話のつもりで話したことも、患者家族にとっては『副院長さんが言っていた』という捉え方であることをいつも忘れないで、言葉が不足しないように気を付けたいと思います。そして、自分が伝えようとしたことがどの様に受け止められたか、確認することも忘れないようにしたいと思います。

この研修の最後に私がたてた行動目標は、相手とのやり取りは必ず復唱し、メモを取りながら聞く事です。相手の話を正しく捉える努力をするよう日々頑張っています。

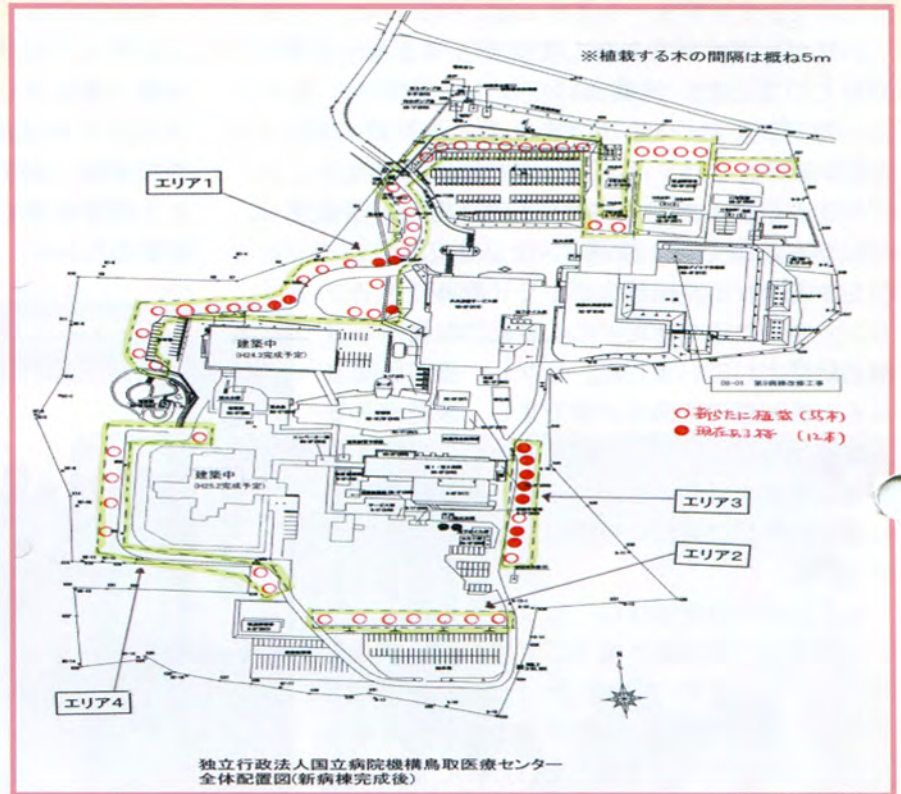
# 院内植栽計画について ～桜の園プロジェクト～

業務班長 小林 英 樹

近々新重心病棟も完成を迎え、当院の建物は病棟等更新築整備によりどんどん更新等されていっているところです。

この度建物整備に合せ、療養環境の向上並びに地域から親しまれる病院とするため当院敷地周囲(又は建物周囲)を桜の木で囲い癒し空間を創造する目的で植栽を計画しました。

この植栽計画は建物整備に合せ3期に分けて行うこととしていますが、最終的には病院敷地周囲を桜の木で囲んでしまおうというものです。



この植栽計画記念の第1本目の桜の木を、平成24年3月27日晴天の下、院長先生及び副院長先生の手により植えて頂きました。



今回(1期目)は、副玄関前の駐車場周囲に植樹しましたので、再来年の春には線路・湖山街道沿いから一面に咲く桜が見えるようになると思っています。(植樹した桜は根付くのに1年半程度かかるようです。)

なお、この桜の木は社団法人霞会館より寄贈を受けました。

社団法人霞会館は、日本固有の伝統的な精神文化を継承し調査研究を行うと共に広く公益、福祉の増進に寄与するため各種事業を行っている公益法人であり、その事業の一環として緑化事業に対する支援を行っています。今回この事業により桜(ジンダイアケボノ)55本(H24.3は39本)の寄贈を受けました。改めて御礼申し上げます。



15. 神代曙 ジンダイアケボノ  
都立神代植物公園に原木がある。染井吉野よりもてんく染病にかかりやすく花色が濃い。



## ● 臨床研究部主催の国際講演会 ●

臨床研究部長 小西吉裕

平成24年2月14日、当医療センターにトーマス・ビーチ博士をお迎えし講演いただきました。ビーチ博士は米国アリゾナ州のサン・シティーにあるパナー・サン・ヘルス研究所の神経病理部門およびブレインバンク部門の長で、アルツハイマー病の神経病理学およびブレインバンクでは、米国のみならず世界的に広くその名が広く知られています。日本でのブレインバンクを一元化し整備するため、米国側の代表者として指導的立場にもおられます。

アリゾナ州のサン・シティーは州都フェニックスの北西に位置し、55歳以上しか住めなく、北米地域では定年退職後に住みたい町第一位として「老後の地上の楽園」と言われています。その中にあるパナー・サン・ヘルス研究所は、アルツハイマー病など高齢者に多い病気の原因や治療の研究を行っている研究機関で、とくにブレインバンクは世界的によく知られ、ブレインバンクの脳は世界中の脳研究者に供与されています。

ビーチ博士はサン・シティーの研究所で自らアルツハイマー病の研究を行うだけでなく、世界中の研究者のために、研究用のヒト脳試料を整備することで多大な貢献をされているのです。

この度ビーチ博士を鳥取にお迎えし、彼の以前からの研究課題である「アルツハイマー病の成り立ちに関する仮説の1つである“コリン作動性神経細胞障害仮説”」に関してお話しいただきました。この仮説はアルツハイマー病で真っ先に障害されるのは、認知・記憶に深く関与しているコリン作動性神経細胞というものです。アルツハイマー病治療薬では最も流通している「ドネペジル」は、この考え方に基づいて開発されたのです。ビーチ博士には「コリン作動性神経細胞障害仮説」と、アルツハイマー病に関する

他の重要な仮説である「アミロイド仮説」「リン酸化タウ仮説」はそれぞれ関連しているという研究結果を講演いただきました。まずマイネルト基底核のコリン作動性神経細胞にタウ蛋白の過剰リン酸化による神経原線維変化が起こり、その神経細胞が投射する大脳皮質にアミロイド過剰産生と沈着が引き起こされると説明しています。

ビーチ博士には、講演後、奥様のルシアさんと娘さんのサマンサさんと共に鳥取砂丘および日本海が一望できる龍見台へお連れし、夜は賀露でカニと純日本風の旅館を満喫いただきました。

ビーチ博士ご一家は、前日に滋賀医科大学分子神経科学研究センターで行われた国際シンポジウムに招待され来日されました。招待講演者は4名で、ビーチ博士はサンヘルス研究所のブレインバンクについて、小西吉裕 鳥取医療センター臨床研究部長はアルツハイマー病の病前期でのサイトカインの動向につき講演しました。

鳥取でもビーチ博士には、献脳に基づくサンシティーでのブレインバンク事業についてお話しいただきました。欧米では研究に使用するための献脳が普通に行われています。ブレインバンクでは後進国である日本の私達には有意義な話が聞けました。



トーマス・ビーチ博士

# 外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

平成24年4月1日現在

|      |               |      | 月                            | 火                         | 水   | 木                         | 金                         |       |
|------|---------------|------|------------------------------|---------------------------|---|---------------------------|---------------------------|-------|
| 内科   | 循環器           |      | 松本                           |                           | 松本  | 松本                        | 松本                        |       |
|      | 呼吸器           |      | 山本                           | 山本                        | 山本  |                           |                           |       |
| 神経内科 |               |      | 1                            | 高橋                        | 岡田  | 井上                        | 金藤                        | 土居充   |
|      |               |      | 2                            | 下田                        | 下田  | 金藤<br>(嚙下外来)              | 土居充                       | 房安    |
|      |               |      | 3                            | 小西                        | 房安  | 齋藤                        | 小西                        | 井上    |
|      |               |      | 4                            |                           | 齋藤  |                           | 三島                        | 土井あかね |
| 小児科  |               |      | 中野                           | 小松                        | 赤星  | 中野                        | 赤星                        |       |
| 精神科  | 初診            | 診察室6 | 助川                           | 岩田                        | 坂本/岡田                                     | 幡                         | 高田                        |       |
|      |               | 診察室7 | *予約制(午前中のみ)で事前の予約受付が必要になります。 |                           |   |                           |                           |       |
|      | 再診            | 診察室1 | 高田                           | 助川                        | 土井清                                       | 高田                        | 柏木                        |       |
|      |               | 診察室2 |                              | 坂本                        |   | 助川                        | 土井清                       |       |
|      |               | 診察室3 | 岩田                           | 幡                         | 幡   | 岩田                        | 坂本                        |       |
|      |               | 診察室5 |                              | 池成                        |   | 林                         |                           |       |
|      |               | 診察室8 |                              |                           |   |                           | 岡田                        |       |
| 外科   |               |      | 古澤                           | 古澤                        | 古澤  | 古澤                        | 古澤                        |       |
| 専門外来 | 睡眠外来          | 精神科5 | 坂本                           |                           | 高田  |                           |                           |       |
|      | 神経内科<br>(予約制) |      | 失語症<br>パーキンソン病<br>高次脳機能障害    | 失語症<br>パーキンソン病<br>高次脳機能障害 | 失語症<br>パーキンソン病<br>高次脳機能障害<br>嚙下障害<br>てんかん | 失語症<br>パーキンソン病<br>高次脳機能障害 | 失語症<br>パーキンソン病<br>高次脳機能障害 |       |
|      | 小児科<br>(予約制)  |      | 発達外来<br>小枝                   | 発達外来<br>赤星                | 発達外来<br>中野/関                              |                           |                           |       |
|      |               |      |                              |                           | 予防接種 15:00~16:00                          | 第3水曜日の予防接種は予約なし           |                           |       |

- ◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
- ◆電話 0857-59-1111
- ◆診療受付時間 午前8時30分～午前11時30分
- ◆専門外来診療時間 午後1時30分～午後3時00分 (睡眠外来の受付時間は午前中です)
- ◆休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。
- ◆ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~nistori/>
- ◆地域医療連携室 TEL 0857-59-1111 (内線275) FAX 0857-59-1493